

藤田精治 水戸のロマンチックゾーンと新荘公民館移転についてお伺いいたします。

平成11年第3回水戸市議会定例会に一般質問いたしました，万葉ロマン漂う，杜と泉と歴史の道，水戸のロマンチックゾーンについて再度質問いたします。

水戸には，日本三名園である偕楽園を初め，弘道館，保和苑，水戸八幡宮等全国的にもすぐれた歴史的遺産を擁し，中でも八幡宮から愛宕山古墳，曝井と，水戸を代表する歴史，史跡集積地域を水戸のロマンチックゾーンと呼んでおり，この地域には古くから寺町，花町として栄えた商業地が広がり，古い店舗や土蔵が見られ，古い歴史の息吹と貴重な文化遺産の自然芸術館として，今日まで脈々と生きつづけておりますことは，前回の質問のときにも述べたとおりであります。

水戸市として，この水戸のロマンチックゾーンを今後どのように整備を図っていくのか，計画を伺ったところ，水戸のロマンチックゾーンについては，回遊性のある道路を整備することにより，商店街の活性化も図られることと考え，水戸市第4次総合計画3か年実施計画に位置づけし，地域の特性を生かしたロマンのある歩道整備計画，街並み整備計画を策定し，早期に整備工事に着手できるよう努力してまいりますと，すばらしい答えをいただいたところですが，実際にはまだ策定中なのか，行動には至っていないようであります。

そこで，いま一步踏み込んで質問いたしますが，回遊性のある道路，歩道，町並み計画として水戸のロマンチックゾーンを全体的に考えたとき，二十三夜尊桂岸寺を中心に整備していくのが妥当かと思われます。その方途として考えられますのは，まず二十三夜尊桂岸寺に通じる道路，周りの道路を歴史を漂わせるような石畳にして，休日には車を制限し，その町並みを待，町人がにぎやかに往来し，その時代から現代までのおみやげ屋さんやお茶屋さんにも出入りできるといった江戸時代の雰囲気そのままを醸し出すのも，またまちづくりと夢づくりではないかと思われますが，いかがでしょうか。

さらには保和苑の北側，天徳温泉の下の金魚養殖場周辺を水戸市営の乗用車，バス等の駐車場にして，車を降り，保和苑に通じる雑木林の中を進む観光的エスカレーターを設置して，自由な散策路を計画してみたいかがでしょうか。

そして，新荘公民館移転の件であります，以上のまちづくりにはどうしても欠かせないものが，集客力のある，例えば地元物産館，おみやげ店，食事どころ，駐車場等の施設であり，この地を訪れた観光客の皆さんがひと休みできる地元と密着した公共広場であります。

水戸市第4次総合計画3か年実施計画によりますと，新荘小学校の改築事業が平成12年度より計画されております。そこでぜひお願いしたいのですが，新荘小学校敷地内に地域密着型のコミュニティセンターをつくっていただきたい。今日，子供の数は減少し，校舎の使用面積の縮小も当然と考えられ，学区の中心地である新荘小学校敷地の有効利用のための整備は，地域の人たちにとってまたとないチャンスであります。小学校と公民館が一体となって，おじいちゃん，おばあちゃんと一緒に遊び，学習する子供たちにとって，これ以上の有益な社会教育の場はありません。地域に住むお年寄りから小さな子供までみんなで自由に交流できる遊びの場と広々とした空間のあるコミュニティセンターのモデルとして，新感覚の生活の中で自然と親しむことのできる居住環境の実現の原動力を目指してみたいかどうか。

新莊公民館を新莊小学校敷地内に、新たな施設として計画統合して、さらには旧公民館跡地を水戸のロマンチックゾーンの中心ポイント施設として活用し、新たな文教地域の創設と西部地区の活性化を計画してみてはどうか、市長の見解をお伺いいたします。

市長 岡田広 水戸のロマンチックゾーンについてお答えいたします。

水戸のロマンチックゾーンにつきましては、国指定文化財の八幡宮本殿、愛宕山古墳を初めとする歴史を忍ばせる遺産が連なり、北側に斜面緑地を有する歴史と自然に恵まれた地域であります。これらの歴史的遺産の保全、活用を図るため、第4次総合計画には、八幡宮・常磐共有墓地・愛宕山古墳歴史ロードの整備を位置づけております。

議員御指摘のとおり、水戸のロマンチックゾーンの特性を踏まえた場合、歩行者の回遊性の創出が重要であります。そのためには中心となる保和苑の整備がまず必要であると考えております。また、当地域の活性化及び町並み整備を図るに当たっては、これらと調和した商店街等の環境整備も必要となってくると考えられます。

さらに議員御提案の保和苑北側の駐車場及び観光エスカレーターの整備につきましては、今後、周辺道路の整備状況や回遊性向上に対する整備効果等を検討していきたいと考えております。

したがって、八幡宮・常磐共有墓地・愛宕山古墳歴史ロードの整備につきましては、現在、核となる保和苑整備の計画を進めておりますので、今後とも事業を総合的に推進するため、地元の皆様方及び関係各課と協議をしながら、周辺環境と調和のとれたデザインに心がけ、歴史を感じさせる歩道の整備を進めてまいりたいと考えております。

教育長 堀川賢壽 水戸のロマンチックゾーンの整備に伴う新莊公民館の移転についてお答えします。

新莊公民館は、昭和57年に建設され、他の公民館と比較しても新しいものですが、床面積、駐車場とも狭く、また位置的にも学区の北西部に偏っている関係で移転の要望も出ているところです。

したがって、新莊公民館の整備につきましては、現在地で改築するか、あるいはまた移転改築するかについて検討を重ねているところです。

議員御提案の地域住民の世代間交流が図れるという学校施設と一体となった公民館整備の考え方や現施設の活用方法につきましても、現在進めている新莊小学校改築計画にあわせ、教育委員会内部で検討するとともに、地元とも十分に協議しながら、方針を定めてまいりたいと考えています。